

ワクチン海上輸送も可能に

■サーモキング、マイナス70度で温度管理

冷凍機器メーカーのサーモキング(日本総代理店=EFインターナショナル)はこのほど、新型コロナウイルスワクチンに適した輸送を可能とするサービスを提供すると発表した。20フィートリーファーコンテナを活用し、ワクチン輸送の要件とされるマイナス70度での厳密な温度管理による安定した輸送を実現。これによりコンテナ船での海上輸送も可能とする。

新型コロナの感染が世界中で拡大する中、ワクチン開発が全世界の製薬会社で進められている。早ければ年内にも生産が始まる見通しだ。ワクチン完成後は全世界への流通が一気に拡大するとみられることから、各航空会社はその輸送需要の急増を見越し、グローバルでコールドチェーンの構築を急ピッチで進めている。しかし、航空輸送は航空便のスペース不足が慢性化しているほか、輸送時の厳格な温度管理、高騰する運賃などが課題となっている。

なかでも厳格な温度管理による安定した輸送は必須課題だ。サーモキングは「世界保健機関(WHO)によると、現在、繊細な温度管理が必要

なヘルスケア製品の約20%が輸送中に損傷、ワクチンの25%がコールドチェーンの切断により、当初の品質を保てず目的地に到着している」としている。

通常、海上輸送に使用するリーファーコンテナの温度はマイナス35～40度が下限とされる。一方、サーモキングではマイナス60度の超低温輸送が可能。スーパー・フリーザーも提供していたが、マイナス70度を長時間安定して維持するものはこれまでなかった。今回、サーモキングが各製薬会社の要件を満たしたマイナス70度での輸送をリーファーコンテナで実現することで、輸送日数の長さによる品質劣化という弱点を克

服。これまでワクチン輸送で有力視されてきた航空輸送だけでなく、コンテナ船による海上輸送を可能とし、そして鉄道、トラックなどの各モードでも安定した輸送ができるようになる。

ドイツポストDHLが3日発表した新型コロナワクチンの輸送に関するホワイトペーパー(白書)によると、ワクチンは今後2年で航空輸送1万5000便(貨物機換算)が必要になるとしている。サーモキングによってコンテナ船による海上輸送が可能となることで、安定したコールドチェーンの構築および輸送力不足の解消につながる事が期待される。